

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 城山 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	86人	社会	86人	数学	86人
	理科	86人	英語	86人		

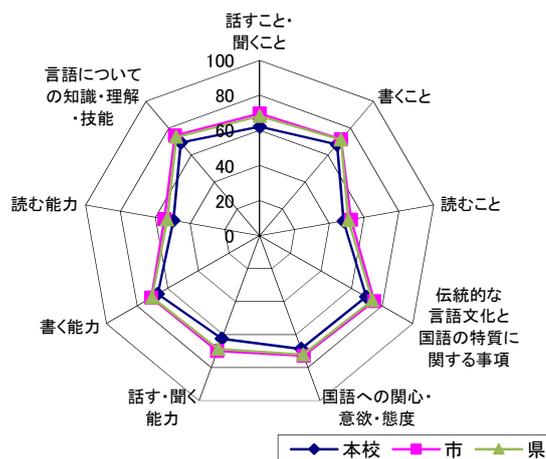
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.2	69.6	68.2
	書くこと	68.0	71.7	71.5
	読むこと	48.2	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.7	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	68.7	72.8	72.1
	話す・聞く能力	62.5	69.9	68.7
	書く能力	66.5	70.7	70.3
	読む能力	49.6	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	69.4	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

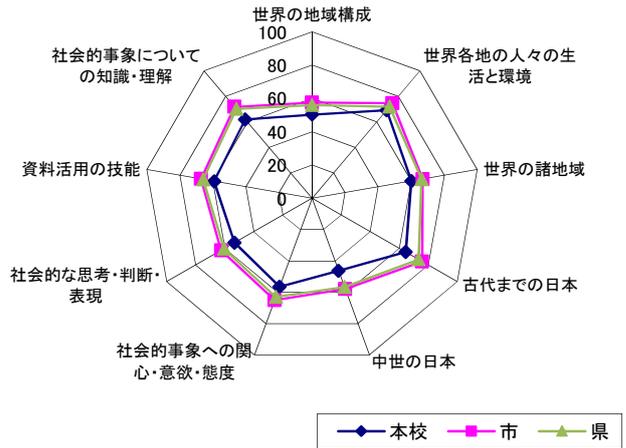
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>この領域は県や市の平均回答率に対して、6～7ポイント低い。</p> <p>●話の内容を正確に聞き取ることができる。では、県や市の平均正答率より6～7ポイント低い。</p> <p>●聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。では、県や市の平均正答率より8～9ポイント低い。</p>	<p>・相手の話を聞いて、自分の考えと照らし合わせ、整理し、さらに自分の考えをもつことは、話し合い活動の基本となる。その力が不足している結果が出ている。話を聞いて、それについて自分は賛成なのか、反対なのか、またその理由を考える時間を取り、自分の意見を発言する機会を増やして、補充していきたい。</p> <p>・資料の効果的な活用方法について考えることは、「話すこと」で必要となってくるものである。説得力のある内容にするため、どんな資料を用いると効果的か。説明的文章を学習する際、その点を良く抑え、理解させ、自分で活用していけるよう指導していく。</p>
書くこと	<p>この領域は県や市の平均正答率に対して3ポイントほど低い。</p> <p>○指定された文字数で書く。では、県や市の平均正答率より2ポイントほど高い。</p> <p>○自分の考えを明確にして書くことができる。では、県や市の平均正答率より4ポイントほど高い。</p> <p>●書いた文章を読み返し、わかりやすい文章にすることができる。では、県や市の平均正答率より11ポイントほど低い。</p> <p>●読み取った内容を明確にして書くことができる。では、県や市の平均正答率より5～6ポイント低い。</p>	<p>・言いたい内容を凝縮した言葉で表現することを得意としている。それは、本校独自で行っている「城川柳」づくりや行事ごとのスローガンづくりが効果を発揮していると考えられる。</p> <p>・活動報告書の内容に合う資料を選んだり、話し合いの内容を参考に提案することをまとめる力をつけていくためには、上記の話すこと・聞くことでの指導に力を入れていきたい。また、記述式の問題の正答率が低いという結果がでている。自分の考えをノートに書く、文章を要約する、などの活動を継続して行ってきたい。</p>
読むこと	<p>この領域は県や市の平均正答率より3～4ポイント低い。</p> <p>○文章の展開に即して内容を捉えることができる。では、県や市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○文章の構成や展開を捉えることができる。では、県や市の平均正答率より3～4ポイント高い。</p> <p>●登場人物の描写を比較して特徴を捉えることができる。では、市の平均正答率より10ポイント低い。</p> <p>●文章の表現の特徴を捉えることができる。では、県や市の平均正答率より8～10ポイント低い。</p>	<p>・説明的文章を読んでいく際、キーワードを押さえて読んでいく指導を行っていく。また、重要な箇所に線を引いたり、接続詞に注目しながら読みを進め、筆者の主張を捉えていくよう指導する。</p> <p>・文学的文章を読む際、描写に表れる登場人物の心情を十分考えさせ、想像させ、感じ取らせながら授業を進めていくよう努める。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>この領域は県や市の平均正答率より、3～4ポイント低い。</p> <p>○漢字を書くこと文節の関係の理解については、県や市の平均正答率と同程度かやや上回った。</p> <p>●漢字の書きの力がついていない。歴史的仮名遣いや故事成語についての理解が不十分である。</p>	<p>・漢字の読み書きの学習については、漢字学習帳や漢字の小テストを行い力を入れている。書けなかった漢字の覚えなおしや学んだ漢字・語句を普段の生活で使う機会を増やしていくよう指導していきたい。</p> <p>・歴史的仮名遣いに関しては、古典を学習する際、歴史的仮名遣いの原則を説明したうえで、繰り返し音読をし、読めるようにしていく。</p>

宇都宮市立城山中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	50.4	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	69.2	74.6	71.9
	世界の諸地域	60.1	67.0	66.3
	古代までの日本	64.4	75.7	73.3
	中世の日本	46.2	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	56.4	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	53.3	62.5	60.5
	資料活用技能	59.3	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	62.0	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

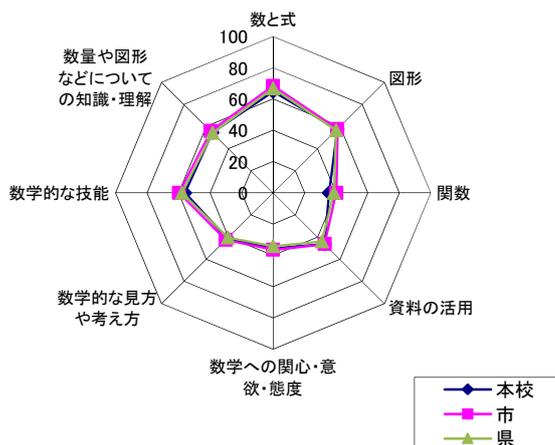
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	<p>この領域では、県や市の正答率に対して、6～7ポイント低い。</p> <p>○世界の地域区分を問う問題については、正答率74.4%と高い数値を示している。</p> <p>●メルカトル図法の特徴を問う問題では、県の正答率を10.8ポイント下回っている。</p>	<p>・世界の地域構成の学習においては、地球儀や世界地理の掛図を用いて、生徒の視聴覚に訴える授業を展開して、学習への興味・関心を高めるようにする。</p> <p>・授業の振り返りとして、ワークを用いて、基礎的な問題演習を行うことによって、知識の定着を図る。</p>
世界各地の人々の生活と環境	<p>この領域では、県や市の正答率に対して、3～5ポイント低い。</p> <p>○世界各地の生活の様子について、自然環境と関連づけて問う問題については、県の正答率を9ポイント上回っている。</p> <p>●雨温図をもとに、世界各地の気候帯について判断する問題では、県の正答率を9.4ポイント下回っている。</p>	<p>・世界各地の人々の生活と環境の学習においては、生徒たちの身近な生活と、世界各地の人々の生活環境を比較させながら、それぞれの諸地域の特徴を考察させるような学習課題を設定する。</p> <p>・雨温図については、デジタル教科書を用いて、宇都宮市の雨温図と世界各地の雨温図を比較させることにより、世界の気候帯の特徴を理解しやすいようにする。</p>
世界の諸地域	<p>この領域では、県や市の正答率に対して、6～7ポイント低い。</p> <p>○アメリカ合衆国の農産物の生産や輸出について、資料をもとに判断する問題については、県の正答率を5.6ポイント上回っている。</p> <p>●世界各州の地形に関する問題では、県の正答率を10.8ポイント下回っている。</p>	<p>・世界の諸地域の学習においては、各地域の特徴をまとめたDVDを視聴させたり、世界遺産や観光地などの画像資料をもちいることにより、生徒の学習への関心を高めていく工夫をする。</p> <p>・プリントを用いることにより、基礎的な知識の定着化と、発展問題への取り組みにより、応用力の習得を図っていく。</p>
古代までの日本	<p>この領域では、県や市の正答率に対して、9～11ポイント低い。</p> <p>○打製石器の役割についての問題については、正答率86.0%と高い数値を示している。</p> <p>●日明貿易の様子について、複数の資料から共通点を見出し、その特徴を説明する問題では、県の正答率を9.3ポイント下回っている。</p>	<p>・古代までの日本の学習においては、生徒たちの既存の知識を活用しながら、現在の学習内容に置き換えて歴史的現象の知識を深めさせていく。</p> <p>・資料の読み取りや説明式の問題については、資料を多面的・多角的に読み取るためのポイント等をしっかりと指導し、記述を必要とするような学習課題を設定する。</p>
中世の日本	<p>この領域では、県や市の正答率に対して、11～12ポイント低い。</p> <p>○中世の時代区分についての問題では、正答率61.6%という数値を示している。</p> <p>●奈良時代の様子の背景について、複数の資料をもとに考察し、その特徴を説明する問題では、県の正答率を7.4ポイント下回っている。</p>	<p>・中世の日本の学習においては、単に歴史的用語の解説に留まらず、資料や写真などを多く用いた授業を展開し、生徒の学習への興味・関心を高め、知識の定着化を図る。</p> <p>・毎時間ごとの学習目標の達成と、思考・判断・表現力の育成を図るために、課題解決型や話し合い活動を取り入れた授業の展開を行う。</p>

宇都宮市立城山中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	64.9	68.4	66.8
	図形	57.8	57.8	56.5
	関数	35.5	40.1	38.5
	資料の活用	46.2	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	35.6	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	41.2	42.5	40.5
	数学的な技能	55.9	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	54.6	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

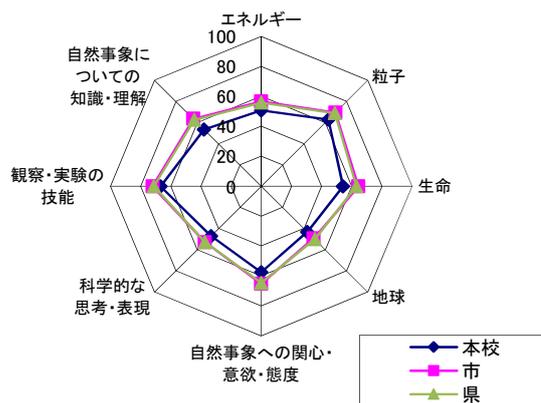
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>この領域は県の平均正答率よりも1.9ポイント低い。</p> <p>○負の数の減法の問題では、正答率が90.7ポイントと非常に高い。</p> <p>○比例式を解く問題では、県の正答率よりも10.4ポイント高い。</p> <p>●負の数の減法に対して、1次式の減法に関する問題では、県の平均正答率よりも12.1ポイントも低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を大切にさせる。 途中式の意味を考えながら計算させる。 授業の最初に計算プリントを取り入れる。 日常生活に結びつけて説明する。
図形	<p>この領域は市の平均正答率とほぼ同程度である。</p> <p>○三角錐の投影図に関する問題では、県の正答率よりも11.2ポイントも高い。</p> <p>○長方形を回転させたときの回転体についての問題では、県の正答率よりも6.9ポイント高い。</p> <p>●おうぎ形の面積を求める問題の正答率は、県の正答率よりも11.1ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して視覚的に訴える。 実物を準備するなど教材の工夫をし、実際に目で見て学習することで、理解を深められるようにする。 必要に応じて既習事項を確認しながら授業を進める。
関数	<p>この領域は、県と市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○比例の式から比例のグラフをかく問題では、県の正答率よりも3.8ポイント高い。</p> <p>●関数についての問題では、県の正答率よりも5.1ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 比例や反比例の関係を理解させる。 式と表、グラフなどを関連させて考えさせる。 多角的に問題をとらえ、様々な視点から解決できるようにする。 比例や反比例のグラフを座標をとって描けるようにする。
資料の活用	<p>この領域は、県と市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○階級の幅についての問題では県の正答率よりも19.2ポイント高い。</p> <p>○1つの資料の全体の中での位置を判断するための根拠についての問題では、県の正答率よりも7.7ポイント高い。</p> <p>●ある数の真の値の範囲を不等号を使って表すことについての問題では、県の正答率よりも13ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数学的に表現された事象について、いろいろな読みとり方があることを理解させる。 問題演習を行う際に「なぜ」と疑問をもたせて考えさせるようにする。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	50.7	56.6	55.8
	粒子	63.0	69.6	69.0
	生命	54.2	64.4	63.0
	地球	43.2	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	57.5	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	47.1	52.8	52.8
	観察・実験の技能	66.8	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	53.7	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

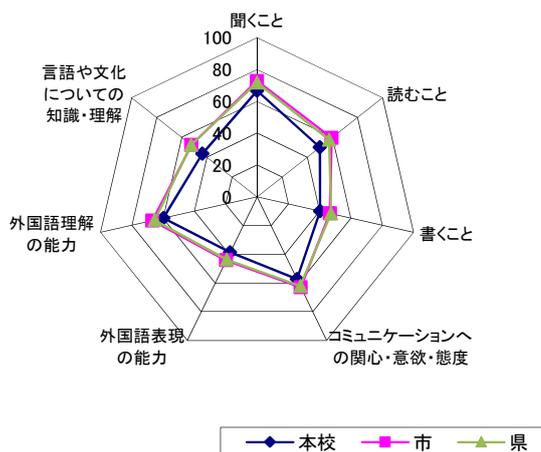
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>この領域の正答率は、県の正答率より5.1ポイント、市の正答率より5.9ポイント下回っている。</p> <p>○実験の結果をグラフに表すことができる生徒が8割以上あり、県および市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●面積の大きさと圧力の大きさの関係を正しく理解している生徒は5割程度である。</p> <p>●自分以外の人の考えを理解し間違っている点を指摘できる生徒は、3割程度である。</p>	<p>・相手の考えや意見をしっかりと受け止め、間違っている点を指摘したり、自分なりの見解を述べたりすることは、「対話」によって深く学ぶためにとても重要である。授業において、意図的に機会をつくりながら、練習を積み重ねていきたい。</p> <p>・力学の特性を利用した道具や用具が身の回りにたくさんあるので、知識を理解させるだけでなく、身近なものについて科学的に説明するような場を設けていく。</p>
粒子	<p>この領域の正答率は、県の正答率より6.0ポイント、市の正答率より6.6ポイント下回っている。</p> <p>○状態変化と体積や質量の関係性について、正しく理解できている生徒は6割程度で、県および市の平均を上回っている。</p> <p>●質量パーセント濃度の求め方を正しく理解している生徒は5割程度であり、県および市の平均を大きく下回っている。</p> <p>●既習の知識を利用して物質を区別する実験を説明することができる生徒が5割程度である。</p>	<p>・授業の中では理解できているものの、時間の経過とともに忘れてしまう生徒が多い。基礎的・基本的内容の理解がしっかりと定着するよう、復習の習慣を身に付けさせていく。</p> <p>・知識の習得だけでなく、それを活用して考える場を授業で設定しながら、習慣化を図りたい。</p>
生命	<p>この領域の正答率は、県の正答率より8.8ポイント、市の正答率より10.2ポイント下回っている。</p> <p>●裸子植物がどのような植物であるかは理解しているが、裸子植物に分類される植物を挙げるできない生徒が多い。</p> <p>●2つの実験の結果を比較しながらわかることを考察することができる生徒は3割未満である。</p>	<p>・授業において、複数のものを比較したり分類したりしながら、共通点や相違点について考える場を設定しながら、「考察する力」を育成したい。</p>
地球	<p>この領域の正答率は、県の正答率より7.0ポイント、市の正答率より6.0ポイント下回っている。</p> <p>●火成岩の特徴から岩石の種類を同定したり、岩石が作られた火山の形を推測したりすることができる生徒が3割程度である。</p> <p>●スケッチの正しくないかき方を指摘できる生徒は6割程度であり、県および市の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・授業の中では理解できているものの、時間の経過とともに忘れてしまう生徒が多い。基礎的・基本的内容の理解がしっかりと定着するよう、復習の習慣を身に付けさせていく。</p> <p>・間違いに気づき指摘することができるように、授業において発問等を工夫していく。</p>

宇都宮市立城山中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	66.7	72.8	71.8
	読むこと	50.1	59.4	57.5
	書くこと	40.3	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	57.3	63.0	62.2
	外国語表現の能力	38.6	44.2	43.6
	外国語理解の能力	59.8	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	43.6	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>この領域の平均正答率は県、市よりも5～6ポイント低い。</p> <p>○英文の要点を正しく聞き取ったり、対話の内容について Who ～? の質問に適切に応答したりすることはできている。</p> <p>●絵を適切に表している英文の聞き取りでは、動作と時刻、場所と月の聞き取りが6～9ポイント低い。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、Where ～? や Can ～? の質問に適切に応答する問題では8～10ポイント低い。</p>	<p>・よく使われる一般動詞や数字、月、曜日等の基本的な語について、授業開始時のあいさつやインタビュー活動の中で繰り返し聞き取らせたり使ったりさせる。</p> <p>・様々な疑問詞を使ったインタビュー活動をとおして、疑問詞の使い方や応答の仕方の定着を図る。</p>
読むこと	<p>この領域の平均正答率は県、市よりも7～9ポイント低い。</p> <p>○対話の流れと資料の情報をもとにして適切な英文を選んだり、メールの内容を読み取ったりすることはできている。</p> <p>●対話の流れとポスターから適切な語の組み合わせを選んだり、登場人物の適切な発言を選んだりする問題では5～14ポイント低い。</p> <p>●代名詞、命令文、Whose, what等の語形・語法を理解する問題では6～16ポイント低い。</p>	<p>・教科書本文の内容の読み取りでは代名詞が表す物や内容に注目させる。</p> <p>・自然な場面設定の中での代名詞や疑問詞を含むインタビュー活動を行ったり、ドリルに繰り返し取り組ませることにより語形・語法の定着を図る。</p>
書くこと	<p>この領域の平均正答率は県、市よりも7ポイント低い。</p> <p>○命令文、現在進行形の否定文、一般動詞の過去の疑問文を正しい語順で書いたり、自分がよく行く場所について3文以上で書いたりすることはできている。</p> <p>●疑問詞whatを使って英文を正しい語順で書いたり、when, whereを使って対話の流れに沿った英文を書いたりする問題では6～20ポイント低い。</p>	<p>・繰り返し小テストを行うことにより、単語や基本文の定着を図る。</p> <p>・授業開始時のウォームアップとして行っているインタビュー活動に疑問詞を使った活動を多く取り入れる。また、活動後に、インタビュー内容について書かせ、定着を図る。</p>

宇都宮市立城山中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている生徒の割合が、宇都宮市の割合より12ポイントほど高い。
- 学校の宿題は、自分の役に立っていると思っている生徒の割合が高い。(93. 1%)
- 勉強していて、おもしろい、楽しいと思う。(82. 6%)「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。(89. 6%)と思う生徒の割合が高い。
- 授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。(94. 1%)と思う生徒の割合が高い。
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。(97. 7%)と思う生徒の割合が高い。
- 学校での役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる。(98. 8%)と思う生徒の割合が高い。
- 自分によいところがあると思う。(83. 7%)と思う生徒の割合が高い。
- 誰に対しても思いやりの心をもって接している。(95. 4%)と思う生徒の割合が高い。
- 学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)に1時間以上学習する生徒の割合は62. 9%と宇都宮市の割合より10ポイントほど低い。家庭学習の充実を図る”プラスONEノート”の提出を毎日行っているが、学年だよりを通してより一層の充実を図っていくよう呼びかけていく。
- 週に1回以上新聞を読んでいる生徒の割合は、14. 0%と低い。
- ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。で、ふだんゲームをしている生徒の割合は、本校は69. 7%と、宇都宮市の割合を8. 5ポイント上回った。
- ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)。で、ふだん通話やメールをしている生徒の割合は、本校は46. 5%と、宇都宮市の割合を9. 6ポイント上回った。宇都宮教育委員会から出ている、「スマホ・ケータイ宮っ子共同宣言」で呼びかけている内容(1日1時間まで、使用は夜9時まで)を再度、学年だよりで呼びかけ、使い方について家庭で考えていくようにする。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における学習課題の提示	授業の始めに、本時の学習の課題を示し、見通しを立てて学習に取り組めるようにしている。	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。の質問で、肯定的に回答した割合が、94. 2%と高い割合であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容